

説 教

イースター聖日礼拝 北浜チャーチ
牧師 黒田 禎一郎

2017年4月16日（日）

主 題：「平安があなたがたにあるように！」

テキスト：ヨハネ 20 章 24－29 節 （27 節）

はじめに

1. “ Happy Easter ! ”

2. 人間社会はすべて「信頼関係」でなりたっています。しかし、その「信頼関係」が難しいのです。なぜなら、一人一人が皆違うからです。私たちはある時は、他人を信頼することはできます。しかし、ある時はできなません。どうしてでしょうか・・・？

- ・一般的に、人間の信頼という尺度は、自分が経験した範囲に立つことが多い。その範囲内では、信頼することは難しくありません。しかし、その範囲を越えるならば難しいのです（想定外）。

{例 話}

- ・私は神の不思議な導きの中で、冷戦時代と呼ばれた「鉄のカーテン時代」、神を認めない国々で多くの聖徒に出会いました。キリスト信仰のために迫害を受けた聖徒（信仰の大先輩）たちからは、多くのことを学びました。
- ・彼らとの出会いは、私の人生に大きな影響を与えました。
当時のソ連邦、旧東欧の6カ国は、宣伝看板やポスター1枚ない暗い社会でした。なによりも、いつも見張られ、密告されるのではないかと不安の中で、人を信じられなくなっていました。その当時のことは、どうぞ私の著書をお読みください。
- ・1989年11月9日、『ベルリンの壁』の崩壊を機に、東ヨーロッパでは国の崩壊という異変がデノミ現象のように起こりました。そして民主化社会へ移行しましたが、国が立ち上がるまでには長い年月が必要です。
なぜなら人間不信の社会で生まれ育った人は、簡単に人を信じることができません。
- ・神を信じるクリスチャンたちが驚いたことのひとつは、「何でも言える自由な社会で」した。彼らは信じられませんでした。何でも言える社会を・・・信じられませんでした。自分たちの理解できる範囲を超えていたからでした。しかし、何でも言える社会は実在していたのでした。ただ、人はそれを受け入れられませんでした。

3. 聖書にも、人の言葉を信じられない人が登場します。その人はトマスという人でした。彼はイエスの12弟子の側近の一人で、イエスと寝食をともにした人でした。他の11人の弟子たちは仲間でした。しかし、彼はイエスが死んでよみがえられたと聞きましたが、信じられませんでした。そんな事はあり得ない！ だから、

- 「自分の目で確認しなければ、信じない！」と言いました。
- ・今朝、私たちはそのトマスについて考えてみましょう。 2点

大切なポイント

1. 愛された弟子トマス

- ・テキストを読んでいくと、疑い深いトマスがどのように変えられていくかが分かります。

20:28 変えられたトマスは、答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」

- ・この1節からトマスについて、3点を考えることができます。

1) 彼の正直さ（疑い深かった）

- ・彼は主の復活を信じられなかった、なぜでしょうか・・・？

- ① 彼は、イエスが他の弟子たちに姿を現された時、不在でその場に自分がいなかった。
- ② 彼は、他の弟子たちの言った言葉を信じなかった。
他の弟子たちは、復活の主に出会った、と言ったが信じなかった。
- ③ 彼は、自分が確認しないかぎり信じなかった。
イエスの手にある十字架の釘跡を、自分で確認することを要求した。

*つまり、トマスという男は、こういう人でした。彼は自分に正直であったのです。

2) 釘跡の確認

20:27 それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」

- ・イエスは、あわれみに富むお方。⇒ 疑心の強かったトマスに、「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」、と言われました。

* ここにイエスが、疑心いっぱいのトマスに、どのように応答されたかが分かります。

3) 彼の告白

20:28 トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」

“私の” ⇒ 文法的には、所有格です。つまり、イエスは私の所有である！
なんという変化でしょうか？

27節⇒28節、わずか1節に大きな文脈的变化を見る。

- ・皆さん。イエスに出会い信頼することに、時間はかかりません！

イエスを信じること、イエスを信頼することには、時間はかかりません。⇒ 信仰とはそういうものです。

*トマスは、イエスの復活を確認し信じました。しかし、ここで注目したのは、イエスのことばです。

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。
見ずに信じる者は 幸いです。」

⇒ 信仰（信じるということ）は、見る見ないレベルではない！

2. 私たちは復活のイエスをどう受け入れるか？

- ・聖書は、イエスは復活したと語っています。しかし、私たちは肉眼で確認できません。だから、ある人は信じられないと言います。{イエスは、トマスに何と言われたか、覚えていますか？}

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は 幸いです。」

- ・「見ずに信じる者は 幸いです。」 ⇒ これはキリスト信仰の中心では、信じるとは一体、どういうことか？
⇒ 五感で認知する以上のレベルのこと

{例 話} 「19年の眠りから覚めた男」

ポーランドであった実話。1988年、ジャン・グルゼブスキーという鉄道員が、車両連結のさいの事故で昏睡状態に陥った。医師は妻ゲルトルーダに、最悪に備えるよう告げた。しかし、彼女は希望を失うことなく夫の看病を続けた。彼女は毎時間、ベッドに寝ている夫の身体的位置を変える努力をし、彼女の家族も交代で見舞うようになった。

事故から19年の年月が経過した。突然、ジャンは目覚めた。19年の眠りから目覚めて彼は何を見たか？彼が最初に認識したのは、愛する妻ゲルトルーダであった。リハビリの専門家は、「もし奥さんの献身的な看護がなかったら、病人がこれほど良い状態を維持することは不可能であったであろう」、と言った。今では、彼は手足を動かせるまでになった。感覚ももどりつつあり、軽いものなら持てるようになった。もうすぐ歩けるようになるでしょう。と言われている。奇跡的回復だ！

ジャンは自分が目覚めた世界が、19年前とは「別世界」であることに驚いた。振り返れば、彼が昏睡状態となったのは、ヨーロッパの共産主義が崩壊する1年前であった。妻のゲルトルーダは、長い眠りから目覚めた夫は「町の通りが色彩豊かになり、販売されている商品も豊富になっていることに驚いている。世界はとても美しくなった！」と言っていると言う。振り返れば、神は19年後にも彼とともにおられたのだ。

神は19年前にもおられ、現在もおられ、そしてこれからもおられるお方だ。時間を支配し、管理下に置かれるのが神である。つまり彼はその神ともにいたのだ。

* 時（人生）を支配する神を信じるとは、ただその神を信頼し受け入れるだけで十分なのです。

ま と め

・イエスは疑心に満ちたトマスに言った。

20:27 それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」

20:28 トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」

・イエス・キリストを信じるとは、どういうことでしょうか？

1. 信じるとは全き信頼である

真の信頼は、五感で確認しなくても信頼できるものです。

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

2. 信仰とは、神を自分の個人的所有とすること

20:28 トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」

・私たちはいかがでしょうか・・・？

* God bless you!